



博物館友の会だより

題字：千葉半匡

文化振興ニュース

気付けば6年ぶりくらい？研修旅行開催しました！



学習館の一室をお借りしてミニ歴史講座開催

友の会前会長の逝去やコロナ禍、会員の減少や、参加人数が定員に達しない、などなど様々な要因で開催が見送られてきた「友の会研修旅行」、やっと、遂に、強引に開催いたしました。参加された十五名の皆様お疲れ様でした。

晩秋と言うより初冬の令和七年十二月七日（日曜日）、初雪のおりた湖北の山並みを傍目に我が敦賀城主・大谷吉継公のお墓参りを目的に岐阜県関ヶ原町へ出発しました。関ヶ原へは高速を利用しても下道でも一時間強程度で行けます。先ずは「関ヶ原町歴史民俗学習館」で、北村太智学芸員によるミニ講座において、関ヶ原の戦い直前の前田利長と、これに対応する大谷吉継の動向やその背景について、最新の学説を学ぶことが出来ました。次に向かったのは近年リニューアルオープンした「関ヶ原古戦場記念館」です。ここでは屋内にもかかわらず、風が吹いたりイスが揺れたり、大画面に映しだされた武将達が叫んだり馬が駆け

ていたり、まるで戦場にいるような臨場感あふれる体験型シアターを観覧しました。ランチは併設のレストランで地元食材を中心とした合戦弁当をいただき、午後は「不和関資料館」を見学後、いざ大谷吉継陣跡とお墓を目指し、一時間程度お墓参りハイキングをしました。天候にも恵まれ、無事研修を終える事が出来ました。

令和八年二月十五日、文化交流推進課主催の「豊臣兄弟と敦賀」講演会が開催されました。北村学芸員により大河ドラマ「豊臣兄弟」に出てきそうな敦賀に関するエピソードの歴史的側面を史料を元に詳しく解説してもらいました。次に織豊期を専門とされる中京大学名誉教授・播磨良紀先生の豊臣秀長についての講演会では、虚構と史実について、歴史学者の立場から触れられる等、大変面白く有意義な講演会でした。満員御礼でした。



吉継様のお墓にお尻を向けたくない記念撮影

柳田國男の見た敦賀

『明治四二年『北國紀行』より』

友の会会長 川村 俊彦

日本民俗学の父と言われる柳田國男が敦賀を訪れたのは明治四二年（一九〇九）六月。『北國紀行』には、二泊三日にわたる彼の見た敦賀の興味深い姿が描かれている。

柳田は、青壮年期を明治政府の農政官僚として過ごした。この年、岐阜・富山・石川を経て福井を歴訪したのも、農商務省の役人としての視察が主たる目的だった。

二十二日に到着した敦賀駅は「飛んでもない荒野の中」にあった。氣比神宮前から現在の場所に移転開業して三週間、まだ周囲は閑散としていた様子が如実に窺える。熊谷ホテル主人の出迎えを受け、同ホテルに投宿。

二十三日、栗野村へ。先ず郡農会試験場で「玉菜火焰菜玉葱トマト」など西洋野菜の試作を見て、浦鹽への輸出品目として有望だと評価している。玉菜はキャベツ、火焰菜とはビートのこと、そして玉葱とくれば……そう、ボルシチの材料だ。

次に栗野村長の案内で黒河山の国有林を視察。時あたかも黒河山官有林下げ戻し訴訟の

係争中であつた。柳田はここに最も多くの紙幅を割いているが、その前に下げ戻し訴訟に到る経緯を簡単に辿っておこう。

明治九年（一八七六）の地租改正で、黒河山入会地は官有林に編入されたが、明治前期頃までは入会権を持つ村の濫伐などで山林の疲弊が進行したため、十八年に農商務省所管国有林として保護区に指定された。

三二年、国有土地森林原野下戻法が發布され、藩政時代からの根拠のあるものは申請に基づき民有に戻すよう定められた。

山元五ヶ村（山、榊林、砂流、御名、公文名）では、既に二八年から下げ戻し運動を開始し、県に復旧所有願を提出するも却下、紆余曲折の末、三八年三月村会の議決を経て、村長より行政裁判所へ起訴した。

柳田が訪れたのは、まさに「数日中に判決」が出る直前の頃で、村長をはじめ関係者の言質から、将来的に野放図な乱開発に流れることを不安視する心境が綴られている。

実は、この行政訴訟は、事業欲にかられた東京の弁護士某が蔭の仕掛人で、訴訟の経費を負担する代わりに、勝てば土地の大部分は其の者の所有に帰する約束だというのである。「村債などは一文も起しませんと、村長

飛んでもない自慢をする」と柳田は呆れている。

その後、敦賀の町に戻り、家々の掘り抜きを眼にして「敦賀は水の良い處」、「心持の好い町也」と褒めている。これは嬉しい。

午後は某案内にてランチに乗り、金ヶ崎下から常宮神社、氣比の松原などを遊覧。

金ヶ崎では、折りしも数日前に古墳が不時

発見され、「宮内省の沙汰を待つ間、巡查一人毎日山上に立番」している時であつた。この年九月に皇太子行啓が予定されており、それに備えた園路整備に伴い、月見御殿跡附近で竪穴式石槨より銅鏡と直刀が出土したものである。常宮では、明治二八年の大水害を境に、拜殿直下にあつた渚の汀線が十町ほど遠のいたこと、氣比神宮の御手洗川では「濁つて溝のやうなるに今もまだ鮎を釣つて居る」ことなど目についた彼是を記している。

二十四日早朝、敦賀を立ち、栗野の兵営前を過ぎ国境（関峠）を越え若狭に入った。

柳田が黒河山官有林を視察した十日後の七月二日、下げ戻し訴訟敗訴の判決が下るが、敦賀を発つ前の彼の言葉が印象的だ。

「問題は一に彼等が正しい事がすきか否かに歸着す。」

○令和八年前半展示のご案内

▼一・二階展示室

平常展示 一階・近代の敦賀(通年)

二階・古代から近世の敦賀

平常展では、一部のコーナーを入れ替えながら通史展示をしています。

▼三階展示室

コレクション展 「敦博どうぶつ園」

四月八日(水)～五月三十一日(日)

博物館の日本絵画コレクションの中から、

動物を描いた作品をご紹介します。かわいい子からかっこいい子まで、個性豊かな敦博のどうぶつたちに会いに来てください。



コレクション展

「敦賀ゆかりの美術」

六月三日(水)～七月十二日(日)

所蔵品の中から、敦賀にゆかりのある作者の美術品をご紹介します。また、新たに寄贈を受けた美術品を一部公開します。

▼三階展示室 夏休み企画展

「佐久間艇長～沈黙の海に希望をのこす～」

七月十五日(水)～八月十六日(日)

明治時代、潜水艇の訓練中に命を落とすも、後の時代に大きな影響をあたえた海軍軍人・佐久間勉について紹介します。

◆記念講演会「佐久間艇長について」

講師 松井善和氏

日時 八月十六日(日) 午後一時半

テーマ展

『おくのほそ道』と敦賀・「天狗党と敦賀」

八月十九日(水)～十月十二日(月・祝)

松原神社の例大祭や中秋の名月に合わせて

天狗党と『おくのほ

そ道』について紹介

します。



▼二・三階展示室

特別展 天下人と敦賀

～信長・秀吉・家康が求めた港町～

十月十六日(金)～十一月二十九日(日)

織田信長・豊臣秀吉・徳川家康といった「天

下人」にとつての敦賀、そして敦賀から見た天下人の動向を紹介します。

前期と後期で一部展示替えがあります。前期十一月八日(日)まで、後期十一月十日(火)より。

遊心し衆
ゆるよーじやー



◆記念講演会 「天下人の時代と敦賀」

●天下人の時代と敦賀

講師 柴裕之氏

●敦賀ゆかりの天下人の城郭

講師 中井均氏

日時 十一月二十二日(日) 午後一時

会場 プラザ万象大ホール

◆関連イベント

越前市公会堂記念館・敦賀市立博物館・若狭国吉城歴史資料館とのコラボ企画として各館学芸員の講演会、コラボグッズ(御城印)の販売などを予定しています。



▼三階展示室

テーマ展「帰って来た！みんな民具展」

十二月三日(木)～一月三十一日(日)

久しぶりのみんな民具展、昔の道具をたくさん紹介します。



○令和八年度イベントのご案内
吉継カフエ十(プラス)

日時 八月九日(日) 午後一時半

会場 きらめきみなど館小ホール

大谷吉継と石田三成の関係を探る

講師 小池絵千花氏

ゲスト 外岡慎一郎氏

講演会後、講師と外岡慎一郎氏とトーク
ディスカッションをします。

歴史ウォーキング

■『おくのほそ道』ゆかりの地を歩く

九月二十一日(月・祝)

■『天狗党』市内史跡見学会

九月二十二日(火・祝)

古文書教室

■戦国の敦賀を読む！

二月頃開催予定



事務局長のつぶやき・・・

この度、ラジオ番組で水戸烈士についてお話しする機会をいただいた。

私のような浅学な者に大役が務まるか不安であったが、知識では皆様に及ばずとも、せめて史跡を歩き、肌で感じたことを語ろうと敦賀市内を巡った。

足を運んだのは、水戸烈士と加賀藩の永原甚七郎が、降伏を巡り心を交わした「新保の陣屋跡」である。

訪れた日はまだ雪が残り、静寂に包まれたその光景は、目の前に彼らの



感謝が込み上げると同時に、ここに残る志に、一橋慶喜や、各地の志士たちに多大な影響を与えた「水戸学」の精神的力強さを感じた。

ふと思いついたのは、かつて市立博物館の企画展で、水戸・弘道館の「尊王」の書を見守る係を拝命した時のことだ。熱心な幕末ファンの方々から次々と知識を投げかけられ、敬服するしかなかったが、書の傍らに座っていると、それまで嗅いだことのない「歴史の匂い」が漂ってきたのを鮮烈に覚えている。

あの時感じた匂いと、新保陣屋の静寂。それは時を超えて私の中で分かちがたく重なり、一つの確信に変わった。水戸天狗党の歩みは、創作

された物語ではない。激動の時代に抗い、命を燃やした人々が確かにそこにいたという、忘れ去られることのない「生」の証左なのだ。

記録をなぞるだけでは、彼らの真実には届かない。この敦賀の地が今もなお記憶し続ける彼らの鼓動を、私は私自身の言葉で届けていきたい。(面尚志)

博物館友の会だより105号

令和8年3月31日発行
発行 敦賀市立博物館友の会
事務局 敦賀市相生町7-8
TEL 0770-25-7033
FAX 0770-47-6131
E-MAIL museum@ton21.ne.jp

[編集後記] 府中市美術館で開催の「長沢蘆雪」展(3/14～5/10)では、館蔵の蘆雪2点と円山応挙1点も出品されています。あと、ここだけの話、館蔵ではありませんが敦賀ゆかりのものも展示されます。江戸時代、経済も文化も関西と強く結びつく敦賀の絵師達の多くは京都の絵師に学び、また京都で流行っていた応挙や蘆雪の絵画を商人達が買い求め、大いに楽しんだと思われます。現在の我々も、時を越えて敦賀商人の旦那衆と一緒に楽しめる機会です。よろしければ皆様も見に行ってみてください。(会員B)